

ぼうさい  
防災について  
わたし  
私たちが  
かんが  
考えたこと！



ぼうさい  
防災ILプログラム  
さんかしゃいどう  
参加者一同

この小冊子を作るのにあたって

近年、阪神淡路大震災や中越沖地震など大規模な災害が起きて  
いる中で、立川市でも地域防災計画の見直しが図られています。  
同時に、災害時要援護者、特に障がいのある私たちについても、  
その検討が行われています。

そこで、障がいのある当事者が、ただ受け身というわけではなく、  
自ら考え防災対策を行う必要があると考え、「防災ELP  
プログラム」を開催しました。

このプログラムには多くの地域の障がい当事者が参加し、活発  
に意見を交換したり、災害救援活動に携わっている講師をお呼  
びし一緒に防災について考えを深めました。

その中で、防災対策として必要なものは何か、どういったもの  
があれば災害時要援護者である自分たちが安心・安全に避難でき  
るか、避難生活を続けていけるかを話し合うことができました。  
それを広く市民の方に知っていただき、一緒に考えるきっかけと  
して今回の防災イベントを開催し、この小冊子にまとめる流れと  
なりました。

ぜひ一読していただき、地域での防災対策に生かすものとなれ  
ば幸いです。

じりつせいかつ      たちかわ  
自立生活センター・立川

## ・ILプログラムとは？

障がいのある人が自立した地域生活を送るうえで必要な心構えや生活技能を学  
び、障がい当事者自身が力をつけていく場のこと。リーダーから一方的に教える  
のではなく、共に考えを聞きあう場である。

# み

# みんなに知ってほしいこと 考えてほしいこと！

かんが  
しょう がいのあるひとと一緒に災害時のコトを地域ぐるみで考える～



し  
ボクのコトを知ってほしい！

いざというときをかんがえて、しょうがいのある仲間、はじめに地域の中で暮らしている自分の存在を知ってもらいたいと思っています。また、困ることについてもしりてほしいと思っています。

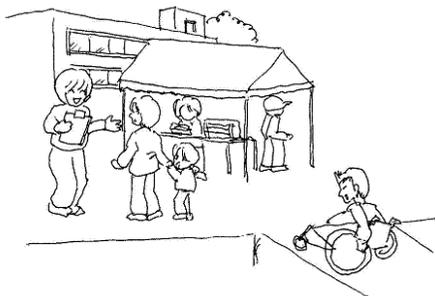
だいしんさい き  
大震災が来た！

ちいき 地域でみんなが知り合えていれば、あんび かくにん と 安否の確認が取れますね。

ひなん 避難しようと思ったとき、いえ なか もの 家の中は物いっばいに散らかり、そと 外はブロック塀が崩れて、くるま 車いすでは身動きが取れなくなります。そんなとき、ちから 力を借りたいと思っています。

いざ避難してきたところでも、くるま 車いすで避難所に居られるようなかんきょう 環境・場所を求めています。

また、居られ続けるためのきょうりやく 協力を求めています。避難所がバリアフリーなら、もっとよいですね。



避難所へいくことができなかつたり、家で避難生活を選んだ場合、そこに障がいのあるひと、災害時要援護者がいることを、地域のひとに知ってもらえればと思います。

その上で地域と連携を組み、水や食料など避難所で配られる物資があれば回してほしいと思っています。



災害時にどのような支援が必要か？障がいがあり避難が困難な方や、災害時要援護者のことを地域で話し合うとき、その「当事者」を議論に参加させてください。

具体的な答えを見つけやすくなり、そのことが地域の防災を一丸となつて考えることに繋がります。



がい

ひつよう

# 害のときに必要なもの 障がいゆえに必要なもの！

しょう

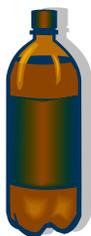
ひつよう

ひつよう

～みんなが必要なもの・そして障がいのあるひとが必要なものは～

ひつよう

## ○みんなが必要とするもの



みず

水・非常食



ひじょうしょく



もうふ  
毛布



ラジオ



防災グッズ

ぼうさい



かいちゅうでんとう  
懐中電灯

いざというときの備え！ですね。

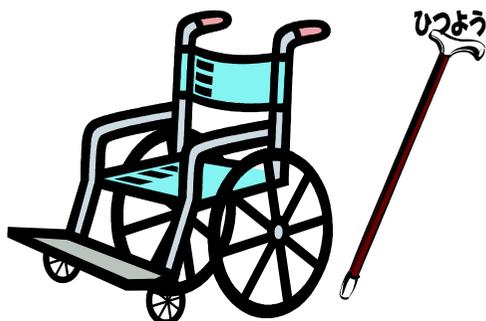
水道や電気など、いわゆる「ライフライン」がストップして使えなくなったとき、その中で避難生活を送るために必要なものがあります。それがこれらのものですね。

もちろん、障がいのあるひとにも必要になるものです。けど、これだけで避難生活がやっていけるのでしょうか...？さらに、障がいのある仲間が必要とするものがあります。

しょう

なかま

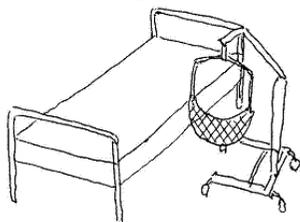
# ○障がいのある仲間が 必要とするもの



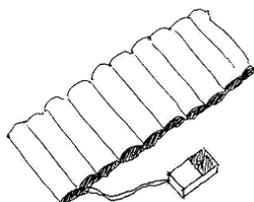
移動に使う車いす・杖  
いどう つか くるま つえ



だれでもトイレ



ベッドと乗り移り用リフター



エアマット

避難生活を送るうえで、

まず移動から始まります。避難したけど車いすや杖を残してきた、避難するときに車いすが壊れたりしたとき、その代わりに必要になります。そして、移動と同じくらい大切になるのは、お手洗い。仮設トイレでもだれでもトイレ（車いすで使えるもの）が必要になります。

夜をむかえたときは、介助を考えベッドを必要とします。

また、横になったときには床ずれを予防するためにエアマットが必要です。ほかに、体調を保つためお薬が必要な場合や、コミュニケーションをうまく取るために文字盤を必要とする仲間がいます。これらが代表的なものになりますが、障がいによって必要なものが違います。もし、ないときは代用品を用いたりひとの力を必要とします。

しょう  
**障**

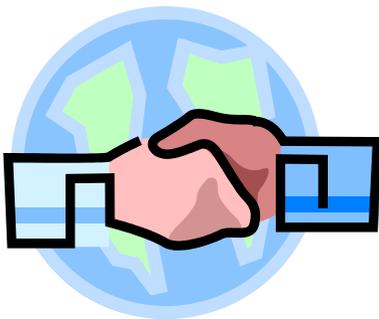
なかま さいがい かんが  
がいのある仲間は災害のことを考え  
こんな行動をしました！

さいがい かんが じぶん こうどう お  
～災害がきたら...そのときを 考えて、自分から行動を起こしました～



じぶん す ちいき ぼうさいしげん  
自分の住む地域にはどんな防災資源がある  
のだろう？それを知るために、この施設は  
さいがい じやく た べい  
きっと災害時に役に立つ！あのブロック塀  
は崩れて危険、避難所の場所を調べるなど、  
ぼうさい かんけい まち  
防災に関するものをチェックしながら街  
を歩きました。

いざというときを想定し、  
じぶん す  
自分の住まいに、いまできる  
じゅんび げんさい  
準備・減災として、タンスや棚に  
「家具転倒防止器具」を取り付  
あんぜん ほか  
け安全を計りました。



じぶん し  
自分のことを知ってもらいたい、  
じぶん す ちいき たが し  
自分の住む地域のひとと、お互いを知  
りあうことが崩れることのないネット  
ワークを作る - そのために、いちれい  
として地域のイベントやお祭りに参加し、  
ちいき イベント まつ さんか  
お話を通じて近所のひとたちと知り  
あひ つかい つく  
合う機会を作りました。

# 防 災に関する福祉制度



「日常生活用具」として・・・

## 火災警報機

煙や熱で火事に気づいて、光・音で周りに知らせてくれます

対象：身体障害者手帳1級・2級の人 ほか

助成額：¥31,000 - (一割の自己負担あり)

## 自動消火装置

火事が起こると、自動的に消火液が出て火を消してくれます

対象：身体障害者手帳1級・2級の人 ほか

助成額：¥28,700 - (一割の自己負担あり)

## ガス安全システム

地震などのとき、ガスを自動的に止めることができます

対象：身体障害者手帳1級でひとり暮らしの人 ほか

助成額：¥42,200 - (一割の自己負担あり)



「家具転倒防止器具取り付け事業」・・・立川市の場合

5カ所まで、タンスや食器棚など地震で倒れないようにする器具を

取り付けてもらえます

対象：身体障害者手帳1級・2級の人 ほか

費用：無料

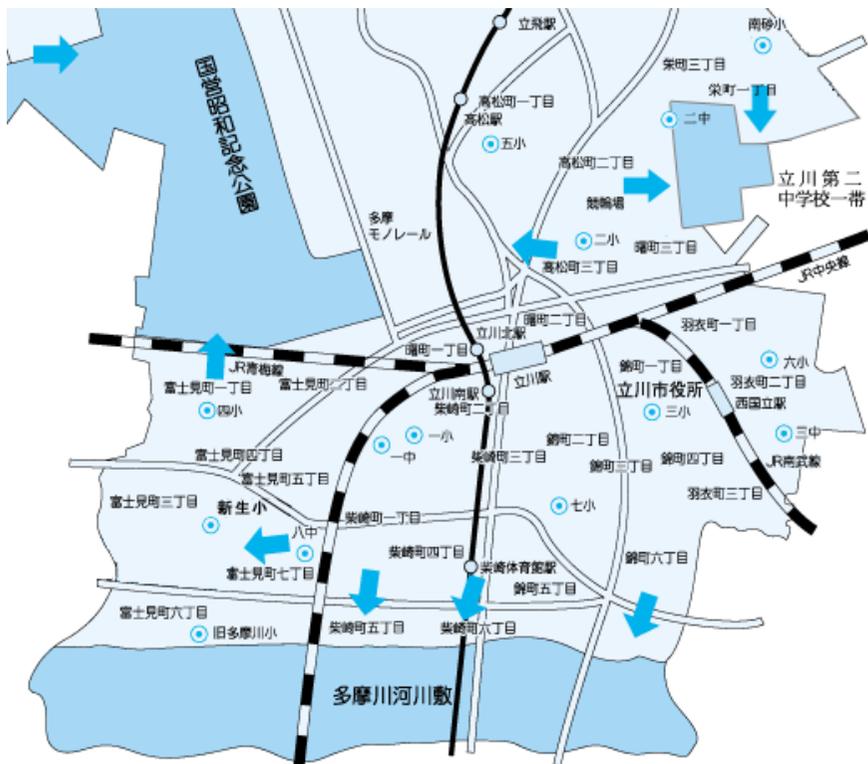
詳しくは、「立川市障害福祉課」042-529-7100

または、「福祉ホットライン」042-526-1418

までお問い合わせください

# 立川市・避難所マップ

たちかわし ひなんじょ



(立川駅方面)  
(たちかわしきまほうめん)



広域避難場所  
Wide-area Evacuation Site  
광역대피소 集中避難場所

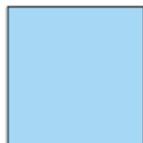
○ 一次避難場所  
Temporary Place of Refuge  
일시적 대피소 暂时避難場所

# 立川市・避難所マップ

たちかわし ひなんじょ



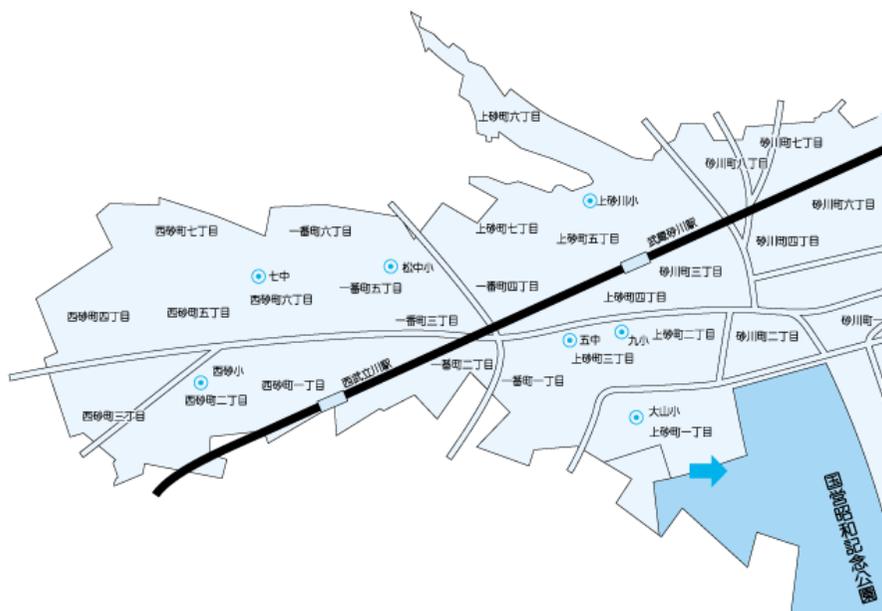
たまがわじょうすいほうめん  
(玉川上水方面)



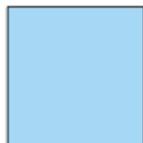
広域避難場所  
Wide-area Evacuation Site  
광역대피소 集中避難場所

一次避難場所  
Temporary Place of Refuge  
일시적 대피소 暂时避難場所

# 立 <sup>たちかわし</sup> 川市・避難所マップ <sup>ひなんじょ</sup>



すながわほうめん  
(砂川方面)



広域避難場所  
Wide-area Evacuation Site  
광역대피소 集中避難場所



一次避難場所  
Temporary Place of Refuge  
일시적 대피소 暂时避難場所

